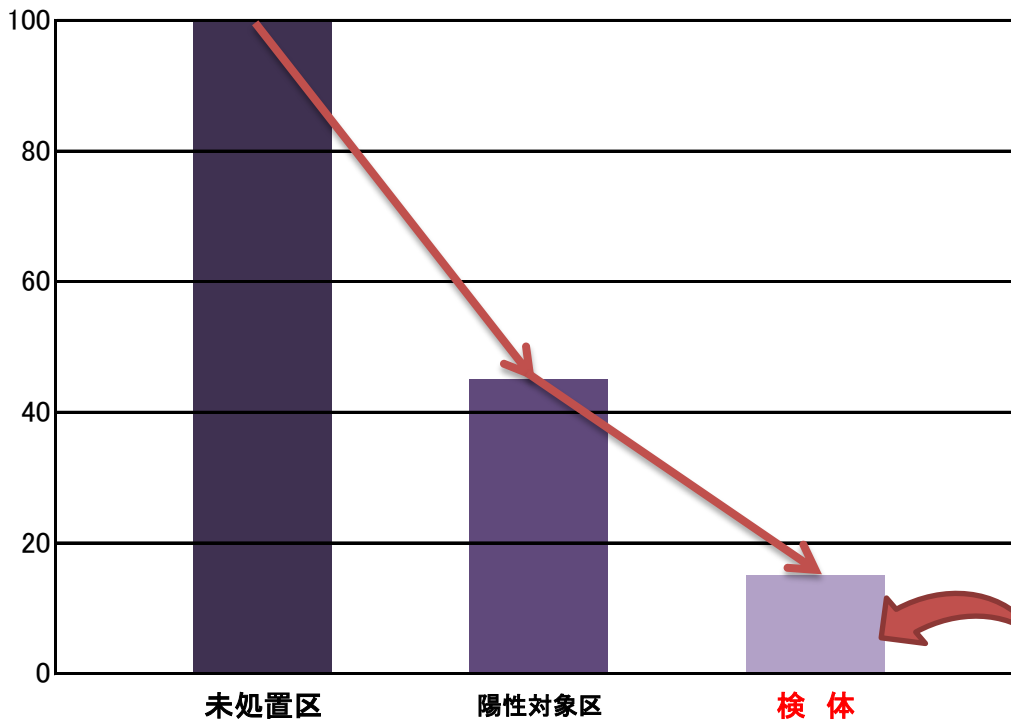


インカの秘密McB(マックビー)

ACE活性阻害の測定結果(高血圧抑制能力)



試験区	相対ACE活性(%)
未処理区	100
陽性対象区	43
検体	13

数値が低いほど能力が優れている。

(財)日本食品分析センター 第10044233001-01号

試験溶液及び陽性対象区の相対ACE活性の結果、抽出液の相対ACE活性は、未処理区の13%であり、検体中には大いにACE活性阻害成分の存在が認められた。

試験概要

資料約1.0gを50%エタノール溶液20mlで抽出後、0.1mol/l HEPES緩衝液(pH8.3)にて10倍に希釈して試験溶液(5mg/ml)を調整し、ACE活性を測定。ACE活性試験はNakanoらの方法[1]に基づき、基質からACEにより分解されて生じるジペプチドをオルトフタルアルデヒドにより蛍光化した後、反応物の蛍光強度を測定することにより実施。

ACE活性阻害は、試験溶液を加えない未処置区の活性を100%とした場合の相対ACE活性をもとに評価。

この際のアングiotenシン阻害薬であるカプトプリル溶液(濃度10nmol/l)については同一条件にて試験を実施し、陽性対象区とした。

[1] Nakano et al. : Biosci. Biotechnol. Biochem., 70, 1118-1126(2006).